

ふるさと奥尻通信

平成28年9月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

席題「夢」・夢でよい大漁節の二千づけ 広雄 ・ねぼけ顔夢の話してひと笑い 光江
・夢があり今日の暮らしが気にならず 忠治 奥尻川柳社 安部風悠選

特集 町制施行の頃

今年(平成28年)、奥尻町は町制施行50年の節目を迎えました。昭和41年1月1日に当時の奥尻村(上埜 賢村長)から町へ昇格したのですが、当時の人口は7138人(同40年国勢調査)で、現在の2800余人の約2.5倍もいたこととなります。全国的には昭和39年の東京五輪を終えて都市部の社会基盤が整い、労働力の供給源たる地方にも、まだまだ活力のあった頃でした。

巷ではビートルズ初来日で大熱狂し、人口が大台の一億人を突破した年でもあり、隣国の中国では後世に遺恨を残すこととなる文化大革命の嵐が吹き荒れていました。

一方、島では昭和38年(1963)に大規模な大火と水害(赤石地区では山津波も発生)に見舞われながらも、第二次離島振興計画に基づいて、島内の各地港湾の整備や電化促進が図られて、空港建設の基礎調査など島内インフラ整備が着実に進んでいきました。しかし、基幹産業の漁業は、かねてから日本海沿岸の漁獲変動の大きかったところが災いし、水揚げ高の減少とともに漁業人口が減り、都市部への人口流出が見え始め、徐々に衰退しつつある状況でした。



正月に電飾をつけた役場庁舎



記念の雪まつり



プロモーションビデオの冒頭

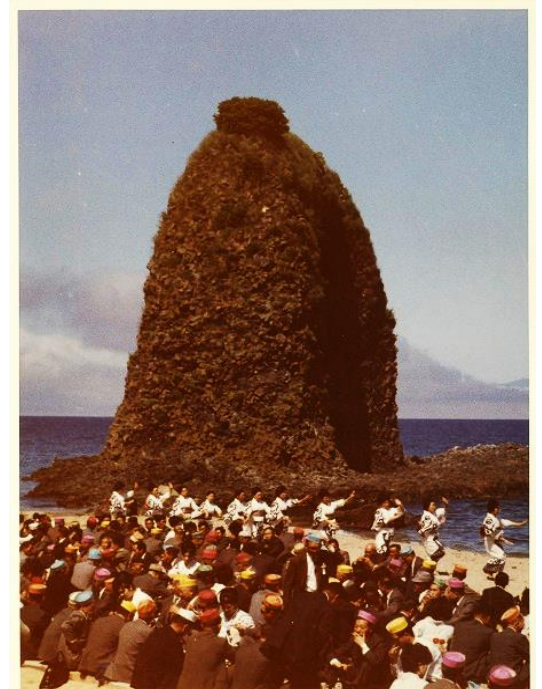


昭和41年頃の奥尻港と奥尻市街地

昭和40年度の出稼ぎ人口をみると、奥尻からは253人が島外へ出ており、檜山管内239人(94.4%)、道内11人(4.3%)、道外3人(1.3%)となっています。職種別では土工121人(47.8%)、雑役54人(21.5%)、大工35人(13.8%)などでした。この数字は管内では最低でしたが、乙部町や上ノ国町、熊石町では人口の1割以上が出稼ぎに出る状況でした。

他方、夏場の風光明媚な離島観光が脚光を浴び始めたのがこの頃で、昭和39年にはSTV制作の島の観光プロモーションビデオが作られ、大火後の真新しくなった町並みや産業の様子が記録されています。この頃のイカ釣り漁船は電動化の過渡期にあり、手回し式のイカ釣り機械をグルグル回し、墨だらけになって大漁する漁師の姿も見えます。ちなみに、この時の奥尻ー江差間の定期船代金は片道610円で、90円の島民割引がありました。

さて、町制施行に合わせて、各種記念行事が行われ、奥尻町の町章制定(町職員の西本政次郎デザイン)、「奥尻音頭」制作、婦人団体、体育協会の設立など、現在でも町民に親しまれている事柄や団体が誕生しました。2月12日～14日には記念の雪まつりが行われ、奥尻小学校グラウンドに第2三島丸やキャラクターの大雪像が登場して町民を楽しませました。これは初めての試みで、2500人ももの来場者があったとのこと。5月14・15日には、記念の釣り大会が開催され、45名が参加して2昼夜兼行の熱戦となり、44匹を釣った人が優勝しました。7月24・25日には、町制記念祝賀会が鍋釣岩を目の前にしたなべつる海岸で行われ、奥尻音頭が披露されました。2日間で5000人の人出となり、大盛況でした。



鍋釣岩の前での町制記念祝賀会



本町の役場には「役場野球部」があります。役場職員でも、野球に心得のあるメンバーが集まっての愛好団体です。この写真は、昭和51年8月22日に江差町で行われた第26回松山支庁管内町職員野球大会の優勝記念で撮られたものです。帰町後、一行は優勝旗を手に役場で試合結果報告を行いました。初優勝から14年経っての二度目の優勝とあって、チーム一行は喜びもひとしおだったようです。試合経過は、第一試合が瀬棚町に3-0で勝利、準決勝が北松山町に7-0で勝利、決勝が江差町に2-1で勝利したのです。決勝は延長11回の熱戦でした。

頭がいい釣り人



学芸員オスマエの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

なぜ、思うように釣れないのか？
それはテクニック以前にあなたの「考え方」が間違っているから!!

頭がいい釣り人 悪い釣り人
松田雅一と楽釣会

おおよそ船釣りの愛好家は読んでおくべきでしょう。磯のエサ釣り(ぶっこみ)をする人でも大いに参考になる情報が載っていますので、手に取って損はないでしょう。ちょっとしたコツや、注意点を覚えれば、貴方も大漁間違いなしです(たぶん)。しかしながら、船の場合は先ず船酔いに慣れねばなりません。これは生まれつきのもので、いかにともしがたい。

月刊 奥尻のつり 9月号

秋味の時期がやってきました。昨年は赤石港内にサケの群れが入り込み、島内でも珍しくサケ釣りを楽しむことができました。数年前に放流した個体だと思われます。昭和60年代から平成の初期のころまでは、毎年のように青苗川でサケの稚魚を放流していたため、定期的にサケの遡上を見ることができましたが、現在ではサケが登る河川はほとんどありません。さて、9日には世界最古の釣り針とされるものが、沖縄県南城市のサキタリ洞遺跡で発見されたとの発表がありました。貝の底部を割って加工した1.4cmほどの製品で、2万3千年前のものだそうです。加工した釣り針で魚を捕るといのは、高度な技術であり、当時の文化水準を示す好例となるでしょう。現代人も挑戦してみたいところですが、釣れなくてイライラしそうですね。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つし1ヶ月 第13回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より
のんなたた船をうてつボ行てたで寝分待うた
でない。を見釣来れをかい。るにとど。兄
は事の俺船走たれたる下ずた釣トに出て言 達
なでがはとららなが、るに。リンか発いっ兄が
いは恥自はし盛く、しし別俺場ボししらて達て
。思分打てんな三やたな船にのてたれいはて
錨いかのち十にっ十くら方は来支た。なた自も
を切し船合尾つて余るすへそた度。沖い。動兵
打っいにいばけきり暇ぐ行のらな俺にのだ車隊
つって。自もかてたつもにっかもどは出でがでは
つた働漁信しりい。けなつたたうし寝た四そ来来
く。け夫をなつる右たくい。ま集てな頃時れなな
。は持かけののらつたトリまいいは四迄だか
もこてっ で船もい。ンにっ 皆十 ろっ

ま教点をでいけりた社開の
し育ではてると。教催社九
た的意か、考社い奥主さ会五
。立見に地え会う尻事し教五
場を活震ま教こで七、育・
に出か津し育との名近主六
立しす波たので開が隣事日
つ合かか。在、催参のの
ていとら島り離は加町研檜
再、いの内方島七し村修山
考社う教研にに年まか会管
し会観訓修つおぶしらが内

管内社教主事会開催



建設中の新校舎

り別舎三高舎とて二青
ま教は月等はし、十苗今年
す室連中学、て新九中年度
。は結に校赤した年学度
共さ完の石タな度校末
用れ成隣地、よはで
す、予に区ト奥り閉奥尻
る体定建にし尻統校校
こ育で設あま中合し中
と館す中るす学さ、学
にや。で奥。校れ平校
な特校、尻校一 成と

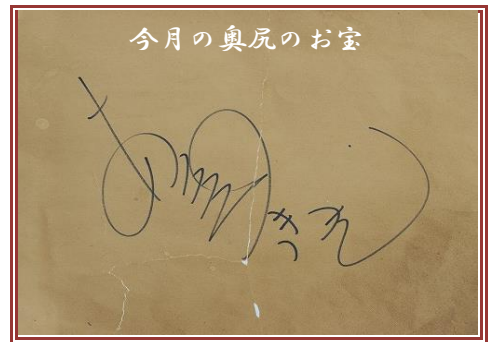
奥尻中学校新校舎建築

とわ結割しいけてい時忘い
思な果つよた私はなはれ出ふ
いか的たう。の良かたるにと
まつにヤと学いついこつした
す。た良ツ教い生思たしといた
人いも室う生いのてが拍
は教いたガとはに。とりまて学
不師たけらな恵。今もとりに学
だ巡れスのまそと思す時校
つりどをでれれなつ。間の
た合、てだつて当を思

新卒之記録(編集後記)

交生別な育月一の業記い校と
をがれつ館二日閉が念ま記青今年
温思のてに十、校進誌す。念苗年度
めい酒いて五青式ん部。行の度末
る出宴ま挙日苗はで会式事。両中
こをがす行に中二い等典の。準学
と語行。さその十まに部。備校
でりわ式れれ閉九す。分事。が
しなれ典るぞ校年。か事。が
よが、後これ式二奥れ業進は、奥
うら卒はとののは月尻て部、ん
。旧業おに体二十中作、で閉尻

中学校開校事業準備進む



渥美清のサイン 男はつらいよロケ